

# 兵庫県における SXの取り組みを リードしてまいります



みなと銀行 代表取締役社長  
ひょうご経済研究所 理事長

武市 寿一

## 巻頭言

足元の経済環境は、旅行や飲食といった業種にも活気が戻りつつあり、経済活動もコロナ禍から正常化に向かう一方、原油価格の高騰、半導体や人手不足による供給制約の他、米国の量的緩和縮小に伴う利上げ等、先行きが見通しづらい状況となっております。

そのような中、神戸では、昨年より大規模な再開発が多数動き始めました。昨年10月、神戸港の新港突堤西地区にオープンした水族館「アトア」が賑わいを見せる他、今年は、三宮で西日本最大級となるバスターミナルやJR三ノ宮の駅ビル事業着手が計画されています。

さらに、2025年の大阪・関西万博に向けて、インバウンドも、過去最高水準まで戻るとの予測もみられるなど、明るい話題も多くなってきました。

また、地球温暖化など環境問題への関心の高まりを受け、「持続可能な社会」の実現のため、環境問題等の解決に向けた取り組みと、永続的に収益を確保する取り組みを両立するビジネスモデルへの転換を目指す、いわゆる「SX（サステナビリティ・トランスフォーメーション）」への取り組みが加速しています。今後、地域社会全体に対して社会的要請が高まってくると考えられます。

当社は、昨年6月にグループ共通のサステナビリティ長期目標を公表し、金融サービスを通じてお客さまをサポートしていくことで、地域社会全体の「持続可能な社会」実現に向けた動きに繋げていくことを宣言いたしました。CO<sub>2</sub>排出量の簡易測定を受けられる「SDGsコンサルファンド」や兵庫県信用保証協会との連携融資商品「タッグ」などを通じてお手伝いさせていただきます。

いております。また、アンケートなどさまざまな機会を通じたお客さまとの対話により、お客さまや地域の実情に寄り添った対応を行い、兵庫県での「持続可能な社会」の実現に向けた取り組みをリードしてまいります。

当社の強みは、「兵庫県のことを最もよく知っていること」と「りそなグループの機能をフル活用できること」です。昨年7月より、地域の求職者情報と求人ニーズを集約し、地域の人材情報ハブとして有料職業紹介業務に本格参入し、実績を積み上げつつあります。また、今年2月には、「グループアプリ」や「Visaデビットカード」の導入など、りそなグループの機能を活用したお客さま向けサービスのご提供を進めてまいります。性の高いサービスのご提供を進めてまいります。こうした強みに磨きをかけ、兵庫県をプラットフォームとした情報サービス業として「真の県民銀行」を目指し、地域経済の発展に貢献してまいります。

また、当社グループのシンクタンク「ひょうご経済研究所」では「季刊ひょうご経済」を通じて皆さまに兵庫県の経済・産業情報の他、SDGsやSXといった中小企業の経営者の方々にお役に立つ旬な情報をお届けしてまいりたいと考えています。

今後も、私もみなと銀行は、兵庫県の発展に貢献できるよう、地元企業の皆さまと連携して、地域の課題解決に取り組んでまいります。金融分野に限らず、皆さまの「困りごと」に多岐からお応えしてまいりますので、引き続き一層のご愛顧、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。